

私の 選択

43

三方原台地の南端に位置する神久呂地区で130年ほど続く茶農家の5代目として、妻とパート2人で茶「やぶきた」「さえみどり」「あさつゆ」を計750畝、裏作に芽キャベツを20畝栽培しています。茶は荒茶にして収穫量の約7割をJAに出荷。残りは自社工場で茶葉を製造・販売し、芽キャベツもJAに出荷しています。

株式会社須山製茶代表取締役

須山 純治さん 茶、芽キャベツ 静岡県



茶「やぶきた」の生育を確認する須山さん

辺の茶農家もカフェを開店して、地域全体で浜松茶を盛り上げていけたらと思っています。

茶の普及で、リーフ茶を飲む人が減少し価格低下が起きています。加えて肥料代や燃料費が高騰するなど厳しい状況が続いています。さらに新型

きていると感じます。収入保険は収入減少を補填するほか、病気やけがなどの備えにもなり、家族や従業員を守ることで安心材料

コロナウイルス感染症の拡大に伴い、家族葬が増え、香典返しとしての茶葉の需要減で収入が大きく減少、保険金等を受け取りました。収入保険に加入していたから今でも茶農家として経営で

病気やけがの備えにも 家族や従業員を守る安心材料

と考えています。価格変動などで茶の経営が難しくなった時でも、保険金等の活用で自己資金を使わずに、芽キャベツ栽培へと転換して経営を立て直すことができます。

このあたりは平たんので大きな山もないので土砂崩れの心配はありませんが、約4ヶ先に太平洋が面していて、台風が来ると塩害が頻発します。芽キャベツや秋冬番茶での被害も想定されるので収入保険はありがたいです。

経営の目標は正社員の雇用と自販率の向上です。そのために、既存の茶のほかハーブ茶や有機栽培茶などに挑戦します。移り変わるニーズに合わせて、こだわりのある商品としてお客さまに選んでもらえるよう努力していきます。

(浜松市西区神ヶ谷町、47歳)